

## 石川県 川北町議会

### (事績1) 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

先進地視察等により、議会のデジタル化を鑑み、タブレット端末等の電子機器を導入している町議会での研修や他町議会との意見交換を行うなど、議会運営の効率化と平準化に努めてきた。

また、各地域や団体の会合に積極的に出向き、住民との意見交換会を開催し、住民ニーズの把握に努め、その内容を議員間で協議することで共通理解の深度を深めてきた。

「通年議会・一問一答による質問方式の更なる検証」「議会議員としてのモラルやスキルの向上」「住民の代表としての政策の提言や情報発信」「執行部に対してのチェック機能の強化」などの課題については、議員10人という小さな議会の利点を活かし、全員での政策づくりや能力向上に弛まぬ努力と自己研鑽に努めている。

平成29年6月からは、町民に解りやすく、より開かれた議会を目指すため、常任委員会や特別委員会ではなく、議員間協議のため新たに議会改革推進委員会を発足させ、活動している。

その成果として、質問方式の更なる検証を進め、議員間協議を重ねた結果、傍聴者等に議論の内容が理解されやすくなるような試みとして、一般質問を分割質問答弁方式と従来通りの総括質問答弁方式の選択制とすることや、議会のスケジュール管理や電子データ化により会議の開催通知、執行部からの緊急連絡、行事案内などの正確な情報伝達の迅速化と、会議資料などのペーパーレス化の実現に向け、日々検討・協議を重ねている。

## (事績2) 住民に開かれた議会

議員は、議会活動に対する住民の理解を深め、住民が議会に関心を持っていただくための取り組みとして積極的に地域の行事に参加し、町民からの意見や要望などの広聴に努め、議会定例会での質問や協議の場で、町執行部に届けている。

議会広報紙は、定例会毎に年4回発行し、一般質問の内容、可決議案の内容、委員会毎の審議内容のほか、議会傍聴や視察研修などの活動状況を町民に広報している。

広報紙の内容充実については、議会広報編集特別委員が研修会等に積極的に参加し、より読みやすくよりわかりやすい議会広報紙づくりに日々研鑽を重ねている。

また、CATVの活用方策として、一定期間、本会議をケーブルテレビ「かわきたチャンネル」で録画放映し、映像により幅広く町民に周知している。

そして、町ホームページにおいては、定例会開催時の過去の一般質問の映像を随時閲覧できるように配慮しているほか、会議録、議員名簿、議会組織、議会広報等を公開している。また、毎年、町内3小学校の3年生が、社会科の授業の中で、副読本「かわきた」を活用して町の学習を行っており、町の仕組みを知る活動の一環として、議場見学等を行っている。当日は、議員が議会のしくみなどについて説明を行うとともに、子供達からの質問にもわかりやすく答えるなど、幼少期の頃から議会への興味が高められるよう、議会一丸となって取り組んでいる。